

奈良保育学院附属幼稚園・自己評価結果公表シート

作成：奈良保育学院附属幼稚園 園長 中町泰子

<1> 本園の教育目標

建学の精神「敬身、敬学、敬事」を下に、「あしたがまちどおしくなる幼稚園」を目標とする。

「体力向上」を目指して心身ともに健康な身体づくりをするとともに、豊かな心と自立できる力を育む。

幼稚園集団生活の中で、あいさつのできる子、決まりの守れる子等、幼児期の「躰」を十分に行い豊かな情緒の安定を図る。

子ども達に、いろいろな体験をさせ団体生活を軸に規律と調和のとれた生活を通して、園児の感受性を大きく成長させる。

教職員と園児が生活を共にすることで、愛情を持って園児たちと接することにより、園児と人間関係を築き困難を成し遂げる気持ちを育てる。

<2> 本年度の重点目標

◎安全に行動できる健康な体と運動能力を育てる。

- ・基本的な生活習慣と健康な生活リズムが身につくように援助する。
- ・喜んで体を動かしたり、いろいろな運動を楽しんだりするような環境構成や援助を、工夫する。
- ・専門指導のカリキュラムをもとに運動能力を高める。

◎思いやりの心を持ったり、生命の大切さに気付いたりするような働きかけをする。

- ・生活の中での決まりを守る大切さに気付くような働きかけをする。
- ・友だちやまわりの人たちなどのかかわりを通して、自分や相手の良さに気付き、思いやりの心が育つように援助する。
- ・身近な四季おりおりの花や生物に触れる機会をつくり、身近な動植物に親しみをもったり、命の大切さに気付いたりできるようにする。

◎子どもの表現しようとする意欲を受け止め、また子どもたちがさまざまな表現を楽しむ事ができるように配慮する。

◎幼児の健康で安全な生活を支えあう家庭、小学校、特別支援関係機関との連携を考える。

- ・健康な体づくりや安全に対する保護者の意識を高めるような援助を工夫する。

◎親子で共通体験をしたり、地域の人たちと触れ合い、親しみを持ったりするような機会をつくる。

◎幼小連絡会や特別支援関係との連携を持ち、共通理解のもとに教育を進める。

<3> 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成実施に関して教職員間の共通理解をはかる。	<p>本年度は園長、教頭を始め5年以上の経験者が多く再度本園の目指す方向を確認しながら保育を進めていく必要がある。教頭及びリーダーを中心に指導計画や記録の作成、保育の実践指導等を行う。</p> <p>職員会議や話し合いの時間を持ちながら、全教職員が一致協力して、望ましい連携体制がとれるように考える。</p>
幼稚園の状況をふまえて中、長期的なビジョンと計画を策定する。	<p>幼稚園に求められる社会的ニーズもふまえ、1学期、2学期、3学期は目標の再確認と反省を繰り返し行った。</p>
教育の質の向上のため園内、園外研修を充実させる。	<p>本園教員の資質向上のため全国私立幼稚園協会、奈良県私立幼稚園連合会、奈良市私立幼稚園協会主催の研究会、に参加し、その他、リモートによる研修会に参加している。また園内研修においては、奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」を基本に資質向上に向けた研修を行った。また、終礼や職員会議等で、子どもの姿について話し合う機会を持ち、日々の保育の見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイスター研修を年6回行う。 （外部講師3回 園内研修3回） ・特別支援研修の継続
保護者のニーズの把握につとめ、幼児期の育ちにふさわしい環境を浸透させる。	<p>保護者との懇談を定期的（7月、12月）に実施するとともに行事等についてアンケートを実施。出された意見に対して必要なものについては、園の考え方を示し改善すべきものは、改善するように取り組んでいる。</p> <p>花プロジェクトの取り組みや、野菜の栽培など、植物の生命にも触れ、感性が豊かになるようにしている。</p>
安全環境の充実に努め園内の環境整備を行う。	<p>新型コロナウイルス等の感染症対策として、除菌用空気清浄機の設置や食卓用パーテーションの購入、手指用消毒やハンドソープのオートディスペンサーを設置し、環境を整えた。</p> <p>その他、園内行事、日々の保育活動の施設の使用には、徹底した衛生安全はもとより、園庭整備、遊具等の安全確認を毎日行い、園児たちの遊具の使用には万全の目配</p>

	りをしている。
預かり保育や子育て支援活動の推進に努める。	急速な高齢化と少子化が進行するだけでなく、社会構造が著しく変動する中で子育て支援として預かり保育を継続する必要がある。保護者の協力を得ながら早朝保育、延長保育の他、春休み、夏休み、冬休みも家庭の事情を考慮して長期預かり保育を実施する。 白藤アカデミー「やわらぎ子育てふれあいサロン」は、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施が困難であったため中止となった。

<4> 学校評価の具体的な目標や計画の総合的は評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取り組み状況を話し、本園としての方針を明確にすることができ、それを実施する礎とすることができた。

<5> 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理の強化と緊急・災害時の安全確保	避難訓練は今年度も月1回実施した。いろいろな災害時を想定し、集会の場を知らせ、実際にみんなで避難の行動をとり、日常から意識づけて訓練をする必要がある。 (地震・火災等) 不審者情報が県や警察から随時提供されるので、それに対して施設面での対応や教員の意識づけの向上をはかる。また本園の法人関係者と教職員との連携力を高め危機に対し危機対策マニュアルを随時見直し適切な対策を取れるようにする。 非常時に備えて個人用(5年間保証)非常食を確保した。アレルギー用も確保できている。 また門の安全性を重視して二重扉とする。 その他、感染症対策を徹底し、環境整備と施設の清掃・消毒、全園児に手洗い・うがい・マスクの着用を定着させる。
特別支援教育	発達障害(行動や感情をうまくコントロールできない、

	<p>不注意で日常生活が身につかない)等の疑いのある幼児に関する支援や保育のあり方について、専門の講師を招いて研修し、実践に活かす。</p> <p>その他、自立の遅れ(言葉や排泄面)、コミュニケーション力、行動の気になる子どもに関する理解を深め、随時専門家の適切なアドバイスが受けられるようにする。</p>
情報の発信や広報活動の見直しと刷新	<p>今年度は動画配信を導入し、コロナ禍にあっても子どもの様子を保護者に配信できるようにした。</p> <p>今後、連絡アプリに切り替え、保護者のニーズに応じていけるようにする。</p> <p>ホームページは園の特色、教育方針、保育活動、行事等、広報活動として活用していく。</p>
<p>地域との関わりについて地域との共生、地域に根ざした学園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白藤アカデミー事業 ・赤い羽根共同募金 ・地域の介護老人福祉施設慰問 	<p>○白藤アカデミー「やわらぎ子育てふれあいサロン」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度は中止となった。再開に向けて感染対策の徹底をする。</p> <p>○社会福祉協議会の協力を得て、赤い羽根共同募金教室を実施した。</p> <p>○年長組が介護老人福祉施設「桜の里」訪問は、今年度は中止した。</p>
園に対する保護者の満足度の把握	<p>建学の精神に則った私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで本園のビジョンを策定する基礎とする。</p> <p>アンケートの実施・・・お子さんは幼稚園で楽しく過ごしていると思いますか？この問いに対して、そう思う85%、ややそう思う14%と肯定的にとらえてもらっている。</p>

<6> 学校関係者の評価

特に指摘すべき項目はなく妥当であると認められる。

<7> 財務状況

公認会計監査により適正に運営されているとみとめられている。